

第121回 幻住庵俳句コンクール

125	124	123	122	121	120	119	118	117	116	115	114	113	112	111	110	109	108	107	106	105	104	103	102	101	番号	
猛暑日の石山寺は避暑地かな	水しぶき風に流されあたらな	暑すぎて感じたことは何もなし	蕉翁の句碑濡らしそり秋時雨	もみじ葉を添へて出さるる宿の膳	一揆の碑燭を上げる曼珠沙華	敬老日手つなぎ歌ふ青春歌	佇める蕉庵の庭屋の虫	名月や庭師の梯子置きしまま	比叡へと湖上を渡る月の道	肩越しを羽音過ぎゆく鬼やんま	集落の戸数減りゆく蕎麦の花	刃の触れて途端に爆ぜる大西瓜	草庵に一灯わびし白路かな	あきあかね雲の流れに逆らゐて	重き荷を花野におろし道きし母	つらつらと幻住庵記や屋の虫	残生を如何に笑顔に蚯蚓鳴く	ふるさとのさびれて駅の秋蕎	夕まぐれ余生迷ひて道をしへ	沙羅の花大地に色を返す雨	大夕焼海を沈めて月登る	波引きて残る砂文字敗戦忌	石切の注連の寂ふ秋風裡	車椅子押して秋日に父かな	句	
枚方市村野本町	府中市美好町						草津市若草										大津市里六							岡崎市戸崎元町		住所・氏名
山野裕恵	磯飛周平						井上次雄										宮崎正子							柴田文子		
150	149	148	147	146	145	144	143	142	141	140	139	138	137	136	135	134	133	132	131	130	129	128	127	126	番号	
振り鉄の人に手を振る秋の旅	金風や笙の音わたる煎茶式	瑞籬祭林直振る帯の束の音	待ったかいありと喜ぶしじみ釜飯	村祭り都会住まいを吹聴す	彼岸花指輪外せぬ三回忌	とくとくと湧けども汲め清水らし	秋暑しちつとも見えぬ伽藍山	姿見に亡父の面影彼岸花	秋風や亡母の句集がある書棚	冬隣り無縁遺骨という孤独	十三夜ネクタイ外し幻住庵	村祭りスーツ脱ぎ捨て奴振り	秋うららネクタイ直す妻の笑み	秋うらら前のめりなる春面展	秋うらら春面に魅入る老夫婦	木の葉散る寂しき朝に降る雪	風薫る木漏れ日の射す石畳	青楓式部の間へも風届く	喜怒哀楽石山寺の蝉しぐれ	青楓見上げミストの涼に会う	石山の蟬神木に読経せり	暗明のしたたる汗に彼の顔	汗の滝風鈴なつてりんりんりん	せみしぐれ静かに佇む式部像	句	
	高槻市高垣市		岡崎市桜形町	大津市中庄一			大塚市中央区				大津市中庄一						四日市市桜花台			和歌山市松江		記名無し	記名無し	枚方市村野本町		住所・氏名
	四方よね子		鈴木洋人	原田三九			中島雄一				原田三九					武田紗季				松本美那子				山野洋平		

第121回 幻住庵俳句コンクール